



- 駐車場 ↓ 0:13
- 第一水門 ↓ 0:11
- 東門 ↓ 0:04
- 第一土塁 ↓ 0:09
- 門跡? ↓ 0:02
- 尾根列石 ↓ 0:09
- 水門推定地 ↓ 0:17
- 八郎社 ↓ 0:07
- 展望地 ↓ 0:05
- 第二水門 ↓ 0:06
- 駐車場

おつぼ山(54m) 神籠石

2018.06.25(月) 晴れ

駐車場～第一水門～石城島神社～東門～第一土塁～門跡?～尾根列石
～水門推定地～八郎社～展望地～第二水門～駐車場



10:27 駐車場とおつぼ山。



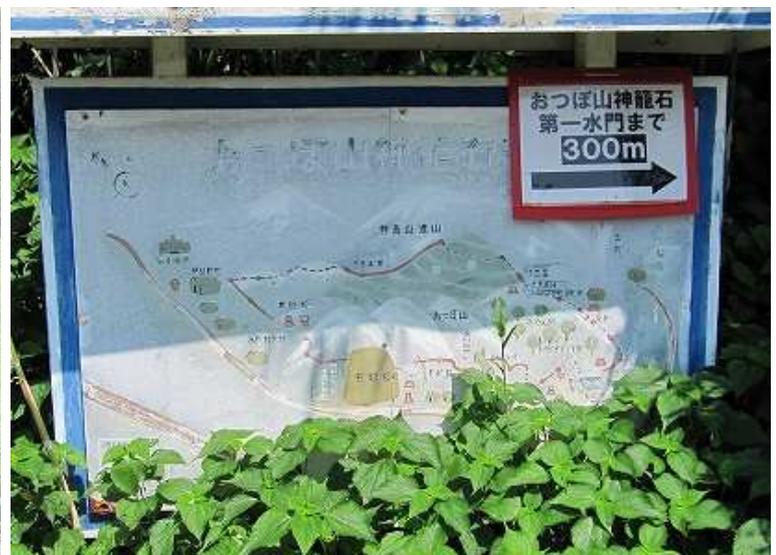
10:28 川を渡る。



10:29 史跡 おつぼ山神籠石 の案内板。



10:29 左側に立つ案内板は消えかかっている。





10:31 第一水門入口。右へ向かう。



10:32 道なりに進む。



10:38 第一水門到着。



説明板。



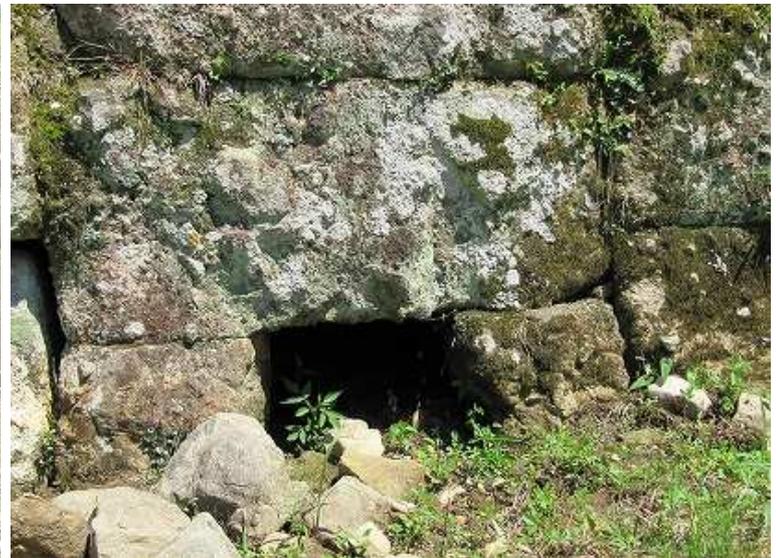
第一水門を正面から見る。長方形切石2段の布積み。



第一水門を東側から見るとアーチ状であることが分かる。



切石は凝灰角礫岩で加工しやすい。



樋管は40cm角程。



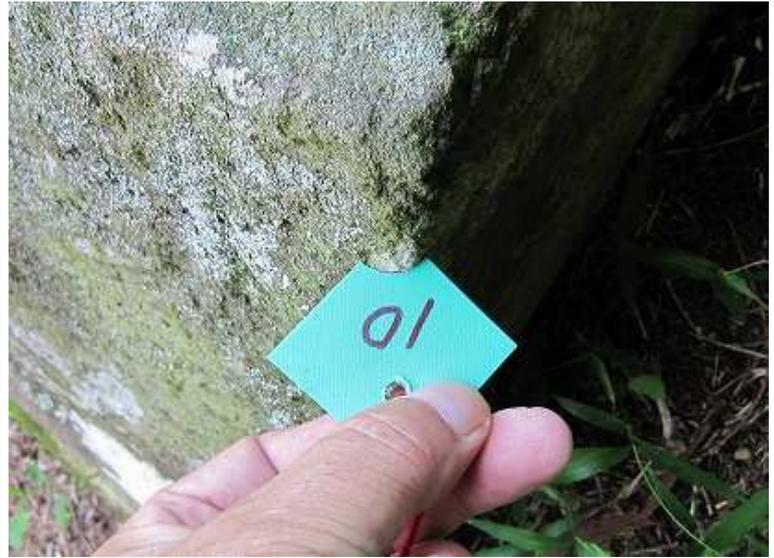
東側端部の列石。天端部が2段加工である。



天端前角はR10である。



天端奥角はR10である。



全面右角はR10である。



10:47 列石に沿って遊歩道がつけられている。



10:52 竹林に沿った場所では列石は埋もれている。



10:54 列石1。



10:54 列石2。地形に応じてカーブしている。



10:58 東門。



右側の門石の列石は2段積みとなっている。



右の門石。



天端面に段加工が見られる。



天端前角はR10である。



天端左角はR10である。



前面左角はR10である。



東門奥右側の露出土。土層は均一に見え版築のようには見えない。



11:03 列石3。



11:07 第一土塁。幅9m、高さ2m、長さ20m程の版築構造による土塁。



南から北。



北から南。



11:13 2段加工の列石。10cm程の段差をつけて加工されている。何のために。



11:15 列石4。8個ほど段差加工の列石が並んでいる。



11:17 門跡？ 列石が抜けている。



左角石。



右角石。



11:19 地山斜面と列石の関係

地山線と列石・遊歩道の間を見ると極めて自然地形をしている。列石に柵を設けるのであれば、斜面右の谷側の勾配は急に造られるのが普通と思われるが、その形跡は見当たらない。



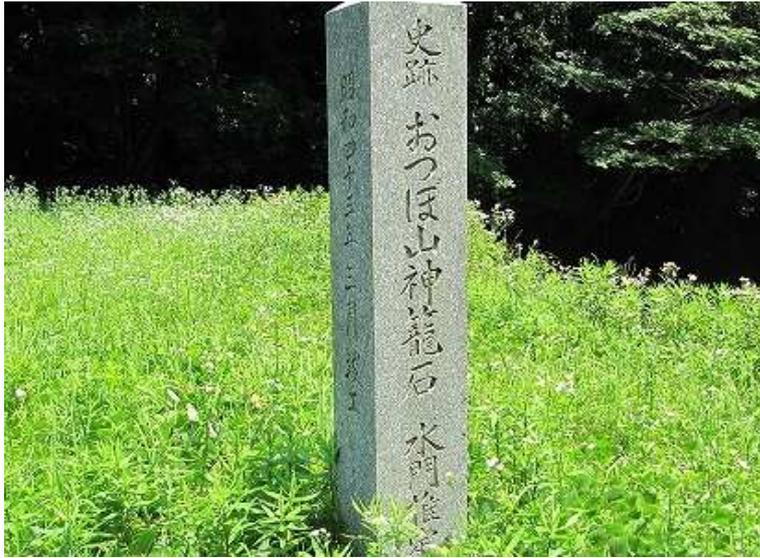
11:25 尾根列石 左になだらかな尾根筋が派生しているが、列石との間に段差が見られず一様の傾斜で流れている。防衛施設とは見なせない。



11:26 列石5。



11:31 凝灰角礫岩。風化により表面が丸みを帯びている。この辺りは列石が見当たらない。



11:34 水門推定地の浦田堤。



11:36 やや急な斜面を登り上がる。



11:40 弱い沢を横断する。水門跡のような雰囲気がある。



11:44 スギの植林帯を緩く上って行く。



11:48 列石6。



11:50 八郎社入口。



11:5 八郎社。周囲より一段高い所にある。周囲の地形は段々で古墳のような形態がある。



奥の空堀。



八郎社敷地南隅の石垣。



八郎社尾根の北西斜面。3段の犬走り地形となっている。



12:03 列石7。



12:05 列石越え。列石は、この先崖で消滅。



バリケードが設置された展望地。下の道路は国道498号。



展望地から南西を望む。



12:08 トラロープの斜面を下る。



ムラサキニガナ



12:11 第二水門。縦断勾配をつけ、前に2段の石張りを施工。



5段積みだが詳細は不明。



樋管は40cm角程度。



12:18 竹林奥に道標の石柱が確認できるので列石は続いているのだろう。此れより国道498号へ出る。



12:20 第二水門を正面から望む。



12:21 斜路を下つてくると国道498号は長崎街道だった。



12:23 橋を渡る。



12:25 駐車場に帰り着いた。